

次世代燃料フォーラムNEXT2026

バイオ燃料価格低減に向けたサプライチェーンの 見える化による価値創造と原料価格制御

2026/3/10

株式会社レボインターナショナル



01 レボインターナショナルのご紹介



設立
1999年



事業内容

- ・ バイオ燃料の研究開発・製造・販売
- ・ 廃食用油引取
- ・ バイオ燃料製造のエンジニアリング
- ・ 原料植物及び油脂の研究開発
- ・ 原料植物のプランテーション



国内拠点数
17拠点
※パートナー拠点含む



従業員数
103名
※2026年2月時点



自社工場
2工場
※関連工場 1施設



生産能力
60,000 ℓ / 日
※バイオディーゼル生産能力
※関連工場にてSAF製造(3万KL/年)

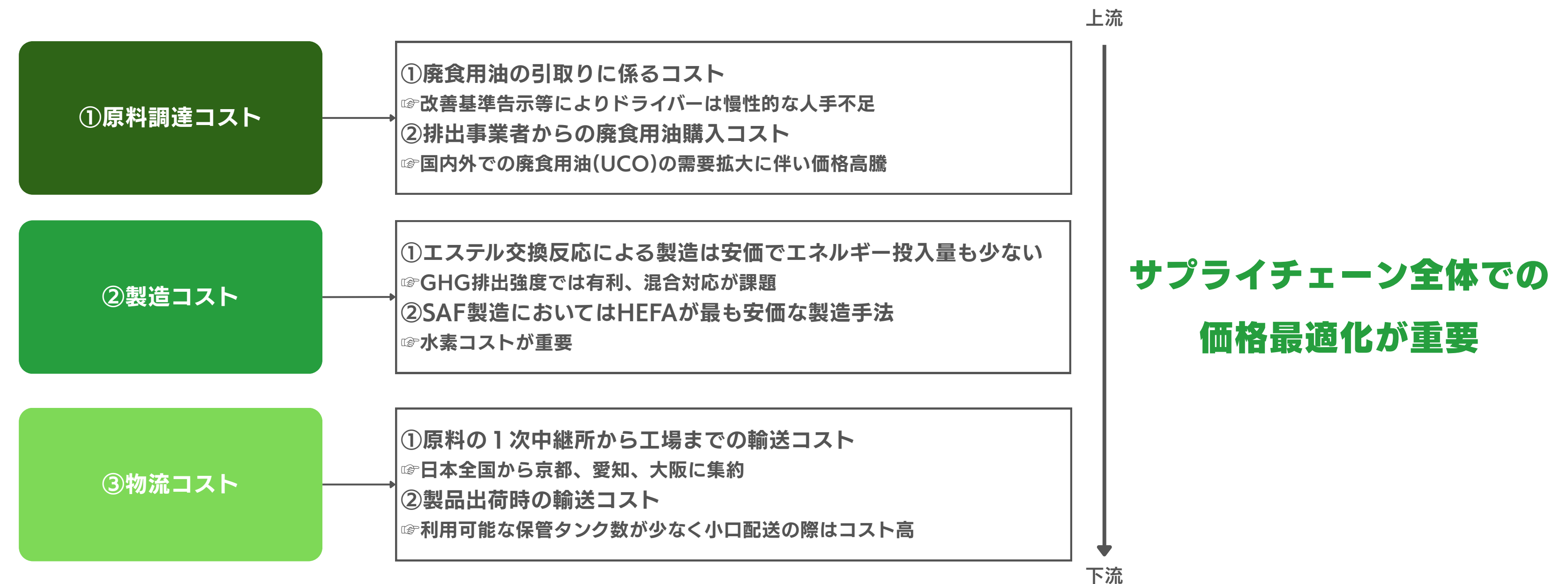


取引店舗数
41,000店
※廃食用油引取先



引取車両保有台数
50台

02 バイオ燃料の価格構成



02 コスト削減可能性

①原料調達コスト

原料調達コスト及び排出事業者からの購入コストの削減が最も現実的

②製造コスト

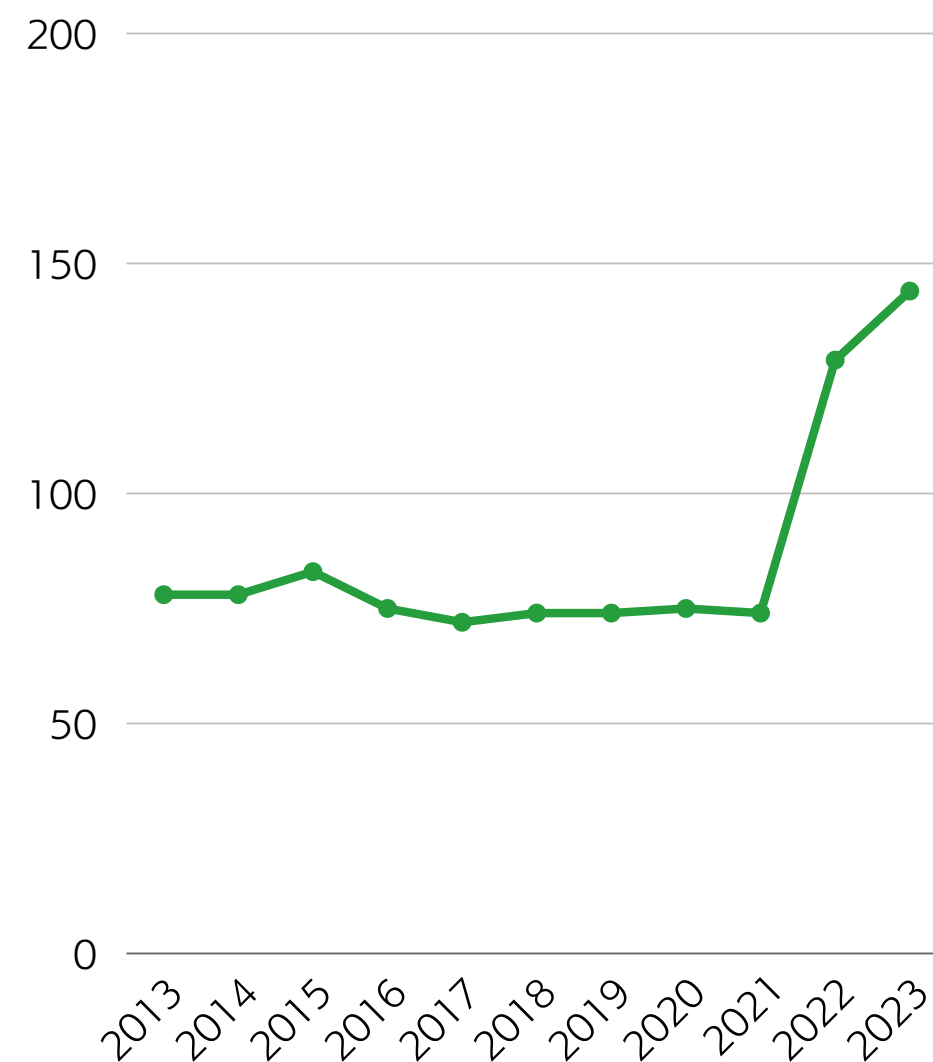
技術革新に伴い削減可能性はあるもののエネルギー価格に依存

③物流コスト

**原料面での制約があり大幅なコスト削減は困難
化石燃料のようにスケールメリットが効きにくい**

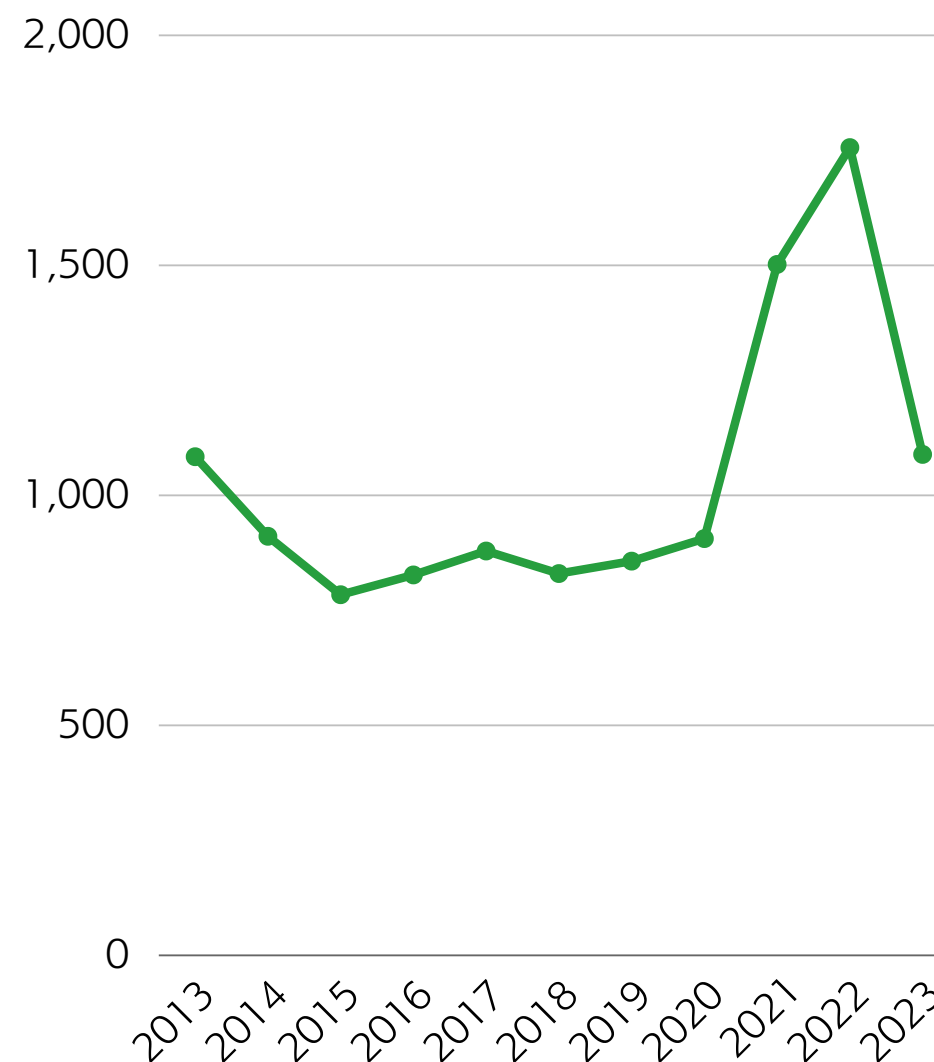
02 廃食用油の国内価格推移

廃食用油価格推移（単位：円/kg）



当社調べ

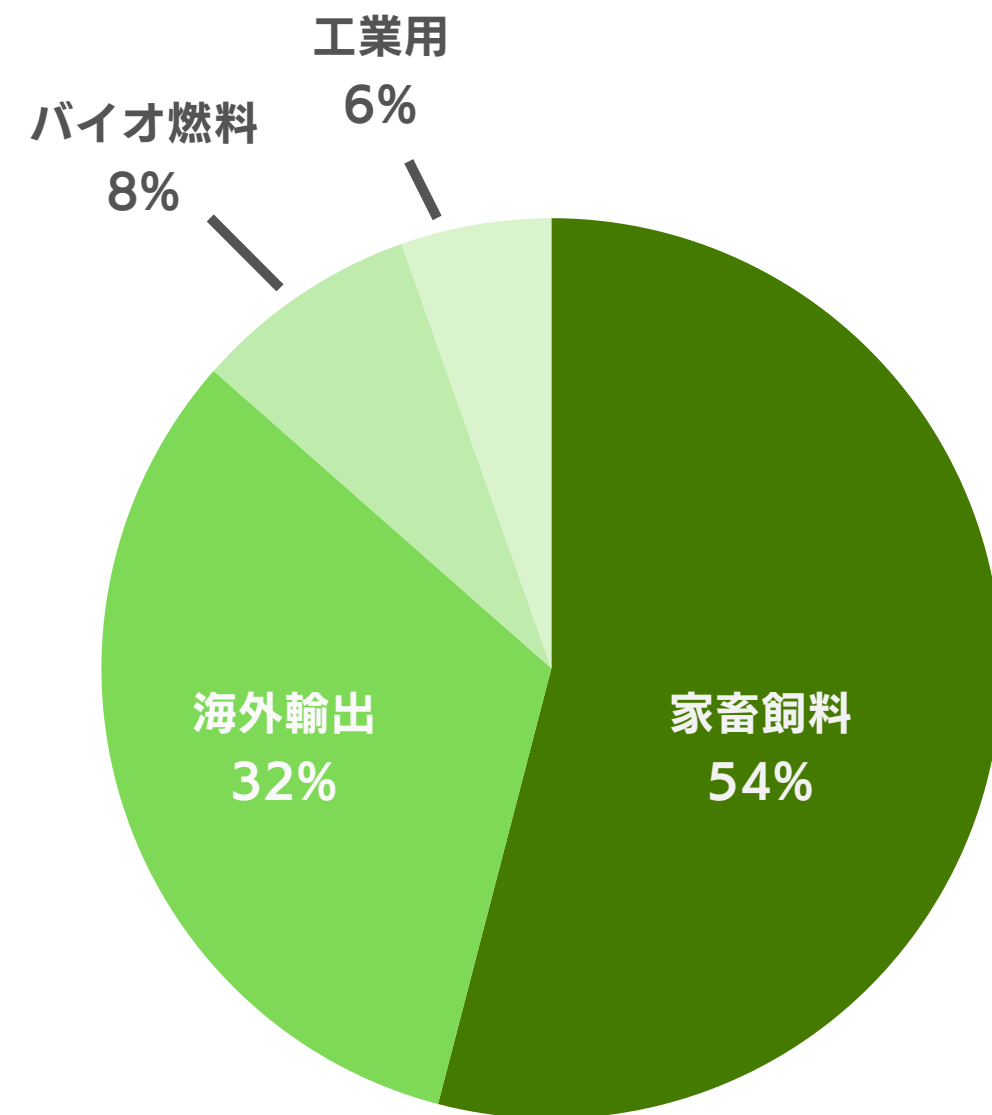
菜種油価格推移（単位：USドル/トン）



出所：World Bank - Commodity Marketsより当社作成

廃食用油は新油価格と相関関係を有するものの、近年の廃食用油価格の高騰はSAF市場の拡大に伴う廃食用油需要の拡大に起因する

02 資源の国外流出



原料（廃食用油）の多くが飼料用途
又は海外輸出されている

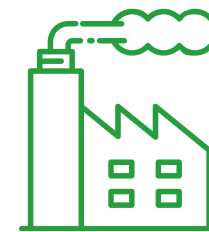
サプライチェーン排出量

Scope3



- 原材料
- 資本財
- リース資産
- 輸送/配送
- 通勤/出張
- 廃棄物

Scope1



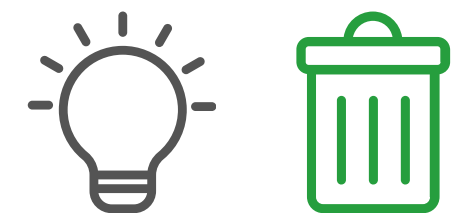
- 燃料の燃焼

Scope2



- 電気の使用

Scope3



- 製品の使用
- 製品の加工
- リース資産
- 輸送/配送
- 製品の廃棄

バイオ燃料は

Scope1+Scope3

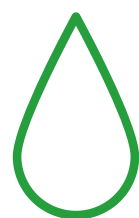
排出量削減に寄与

02 サプライチェーン全体像

自社一貫体制で実施

ラストワンマイル

1.



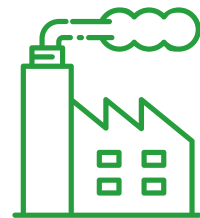
廃食用油回収

2.



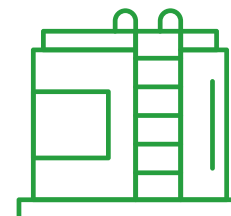
一次中継所保管

3.



バイオ燃料製造

4.



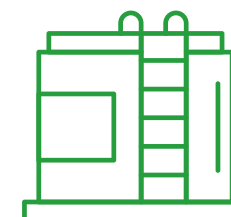
製品保管

5.



製品配送

6.



製品保管

7.



利用

船舶、航空での利用に当たってはラストワンマイルが重要

02 廃食用油回収の効率化

一次中継所及び製造工場



廃食用油回収について



国内41,000拠点からの回収



都市部などの人口密集地域は廃食用油の発生数量が多く引取りコスト低減が可能



山間部、離島、豪雪地域、地方等は回収の効率化が困難である

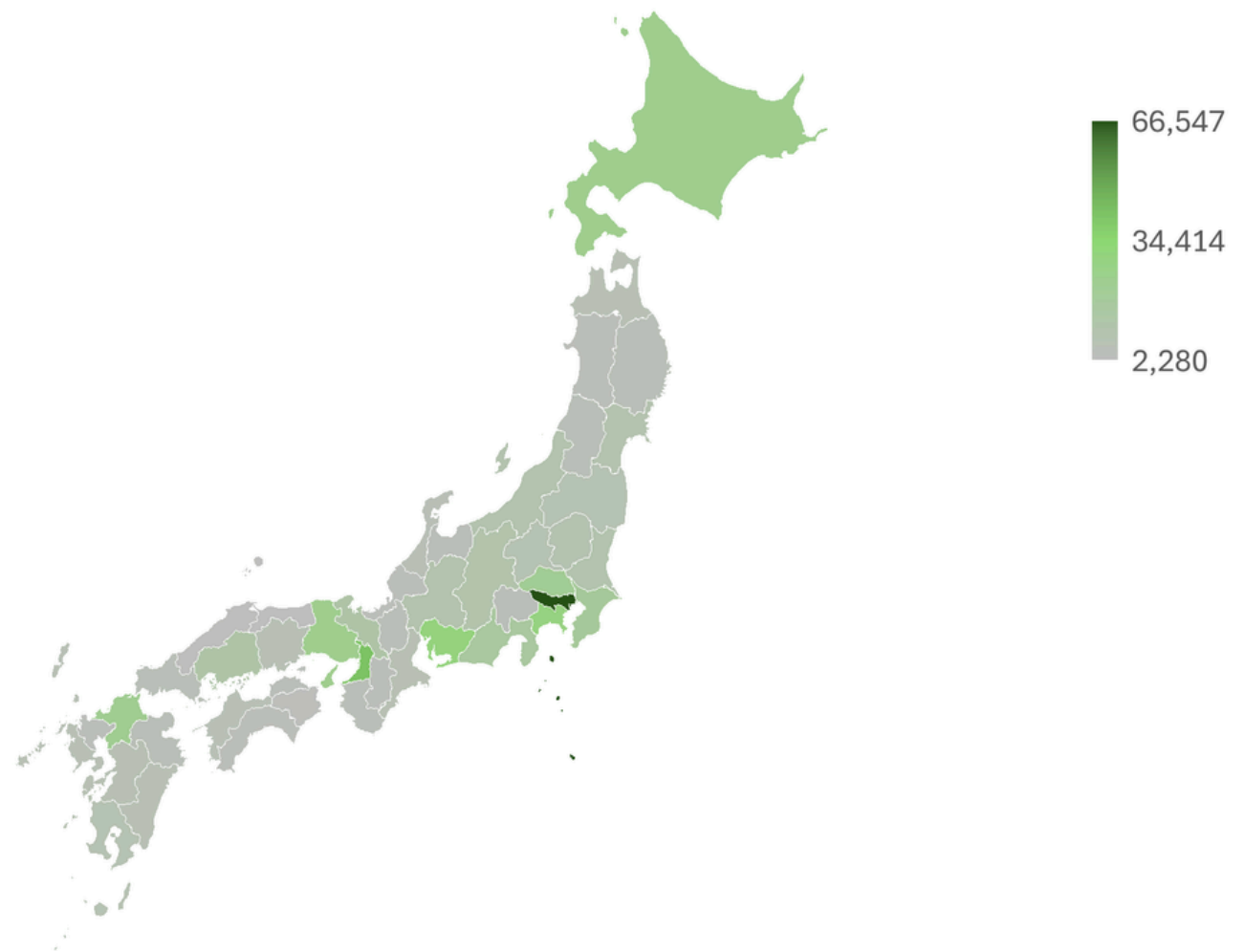
小売業者＋物流会社との連携

イーコス、カクヤスに対しレボインターナショナルと共同で廃食用油をSAF等に再資源化するスキーム構築の支援を実施



02 廃食用油排出エリア想定

都道県別 飲食店の出店数



出所：2021年 総務省による統計ダッシュボード調査データより当社作成

都市部に集中



飲食店は首都圏、関西、東海に集中しており
廃食用油の発生数量と相関関係があると考えられる。

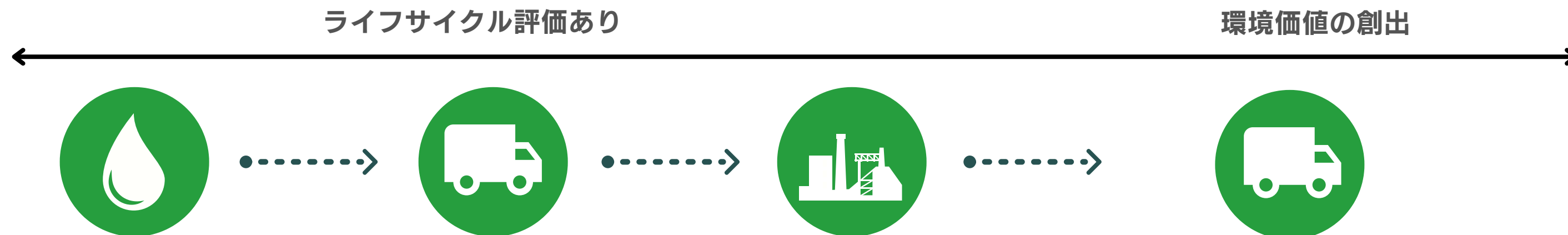
**原料の調達からバイオ燃料製造
までのGHG強度及び輸送コスト
を考慮すると都市部での製造が
合理的である**

03 サプライチェーン全体の見える化

■現在



■取り組み



02 Book & Claim

燃料価値と環境価値を切り離して取引
サプライチェーン全体の見える化が重要





ご清聴ありがとうございました